

「わかりにくさの楽しさ」と出会おう



教育学部長
児童教育学科長 教授
新川 靖

子供の頃の楽しみと言えば、まずは外で遊ぶことでした。友達と遊ぶことは、直接的に自分の世界を広げてくれました。神社や公園を駆け巡り日が暮れるまで野球をしたり鬼ごっこをしていました。川や沼に行けば、どじょうやザリガニを捕まえようと追い回していました。そこで感じた空の青さと太陽の光の強さ、雨のにおい、水の冷たさ、フカフカの雪の手ざわりは自分の中にしっかりと残っています。

そして、私たちの子供時代にとって、もう一つの楽しみは読書でした。小学校の図書室に新しい本が並ぶのを心待ちにしたり、毎週一度、移動図書館として市の図書館からたくさん本を詰め込んだトラックがやってくる日には給食を一生懸命かき込んで我先にと向かったりして、みんなで読書を楽しんでいました。

私は推理小説が好きだったようで、シャーロックホームズのいるロンドンの街に思いを馳せたり、愉快な小学生3人組の活躍に心を躍らせてたりしたのは懐かしい本との思い出です。また、当時は子供向けの雑誌もたくさんありました。私の学校では、本を売りに来る業者の方がおり、そこから買う科学実験に関する付録がついた雑誌を楽しみにしていました。ICT機器、インターネットなどという言葉も聞いたことがないような時代には、本は自分から求めて世界とつながる大切なツールだったのだと思います。そして、図書館は、広大な世界とつながるたくさんの扉がある場所だったのだと思います。

現代を見てみると、身の回りにはスマートフォンを代表として、たくさんの世界とつながる扉があります。そこには鮮明な動画もたくさんあります。それらに、すぐに自ら求めてつながることができるようになったことはとても素敵なことだと思います。しかし、一方で、文章のみという、ある意味で断片的な情報から、自分なりに想像を膨らませながらページをめくるという楽しみもさらにその魅力を増したように感じます。「わかりにくさの楽しさ」とも言えるかもしれません。

さて、この時代、皆さんは図書館をどのように利用されますでしょうか。

大学の図書館ですから学習をしたり調べものをしたりと、自分の求める何かに向けて利用されていることと推察します。

しかし、時にはデジタル機器をオフにして、インスピレーションで本を選んでみてはどうでしょうか。そして、本から受け取るイメージを自分なりに膨らませてゆったりとした時間を楽しんでいただけたらと思うのです。



はじめにひらく データサイエンスの本 文系のための論理的・批判的思考を育成するプログラム

学長
加藤 明

話題のワード「データサイエンス」の基礎的な内容だけでなく、その活用方法を学べるのが本書です。データを科学（サイエンス）する、文系には一見難しそうですが、頁をめくってみてください。図とイラストでわかりやすく説明されています。内容は、著者が小学校教員を目指す文系の学生と授業で取り上げ好評だったものがベースになっているようです。

たとえば大人でも問題を解く楽しさを味わい、知的好奇心をくすぐられながら読み進めていけます。そして、読み終えた後、データサイエンスを支える見方・考え方（リーディング・リテラシー（読解力）が理解できるようプログラム化された構成になっています。苦手な数学がすこし身近に感じられるかもしれませんよ。

最終章では、わかりやすい事例を用いて、身についた知識を日常生活に活かすことへの導入がはかられ、丁寧な説明が加えられます。

タイトルの「はじめにひらく」には、「開き方」を身につけ、新しい世界、自分の可能性を開いてほしいとの願いがこめられています。

図書館に3冊あります。興味のある方はどうぞ。



DATA 著者：加藤 明
出版社：金木屋舎
発行年月：2024年4月

福祉原理の源流を探る 歴史の中で育まれた「人間性」の探究

社会福祉学研究科 研究科長
教授

中村 剛

福祉原理には2つの源流がある。1つは古代ギリシア・ローマである。ここにおいて、形而上の次元で作動している「ヌースとロゴスのはたらき」が見出され、そこから正義や権利が生まれた。もう1つはユダヤ・キリスト教である。ここにおいて、聖（霊）の次元で作動している「神のはたらき」と出会い（啓示を受け）、そこから愛が見出された。本書では、これらが根源的福祉原理であることを論理的かつ歴史的に論証した。

さらに、根源的福祉原理から導かれる福祉理論を、ヘーゲルならびにローゼンツヴァイクの歴史哲学を援用することで明らかにし、その歴史の中で展開する福祉を「贈与」という観点から解明した。

本書が、「来るべき社会福祉学」の実質的な内容の一部を形成すると考えている。



DATA 著者：中村 剛
出版社：ミネルヴァ書房
発行年月：2023年9月

大学における教養の新次元 建学の精神が切り拓く「知」の地平

社会福祉学研究科 研究科長
教授

中村 剛

本書の前半では、教養の源泉には、古代ギリシアのパイデイア、中世ヨーロッパのアルテス・リベラーレス（リベラル・アーツ）、近代ドイツのビルドゥングがあることを確認した上で、「教養には人間性の涵養といった教育の側面と、そこにおいて見出された知恵の2つの側面がある」といった見解を示している。そして教養には、物事を広く多角的に見ることを可能にする一般教養（広い）、物事・知識・考え方などを吟味し真実を明らかにする哲学的教養（深さ）、そして、目には見えない尊いものに気づく宗教的教養（高さ）があることを明らかにしている。タイトルの「教養の新次元」は、宗教的教養も含んだ教養概念を意味している。

後半は教養の観点から、いのち、生・幸福、死、建学の精神である人間平等、個性尊重、和と感謝について説明している。

本書は「生と死の教育」のテキストであるが、広く「教養の書」として読んでもらいたい。



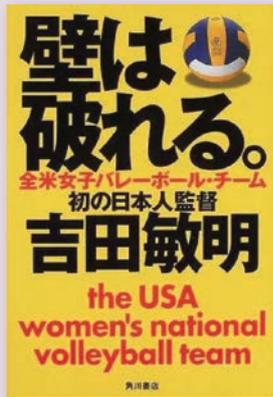
DATA 著者：中村 剛
出版社：ミネルヴァ書房
発行年月：2024年3月

図書館ミニ知識 POP

図書館でいう『POP（ポップ）』は、おススメしたい本を紹介するメッセージカードです。図書館に新しい図書が入ると、入り口付近などの目立つ場所に「本」を展示します。そのときに「本」のおススメポイントを紹介するために、キャッチコピーや本のイメージをあらわすイラストを入れて、その魅力を伝えるのがPOPです。POPは、イラストに表紙や挿絵をそのままつすと著作権侵害の恐れがあるので、あくまでも自分のイメージやアレンジで、本のタイトルや著者名、出版社といった情報をいれて、その「本」を読んだことのない人に手に取ってもらえるように紹介します。最近では、出版社や自治体図書館が主催する図書館POPコンテストなども開かれています。



推し本を伝えるPOP



壁は破れる。 全米女子バレーボール・チーム初の日本人監督

DATA 著者：吉田敏明
出版社：角川書店 発行年月：2004年7月

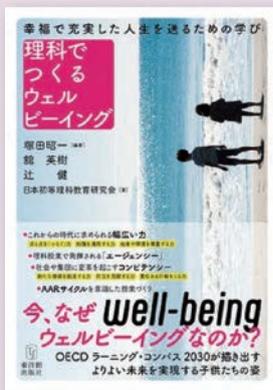
教育学部 児童教育学科
教授

内田 和 寿

バレーボールで日本人がアメリカ代表チームの監督をした際の、さまざまな困難への挑戦が記されているドキュメンタリーです。

「郷に入っては郷に従え」という諺がありますが、著者である吉田さんが、相手の文化を尊重するとともに、日本の「和の精神」を指導に取り入れ、相手に受け入れられていく過程を知ることができます。

スポーツのチームマネジメント、新しい仲間とのコミュニケーションの取り方などについて学ぶことができる一冊です。



理科でつくるウェルビーイング： 幸福で充実した人生を送るための学び

DATA 著者：塚田昭一・館英樹・辻健・日本初等理科教育研究会
出版社：東洋館出版社 発行年月：2023年4月

教育学部 児童教育学科
准教授

杉本 剛

Well-beingとは、何であるのか？ 理科の授業・教員と、どのような関係があるのか？ について、丁寧にわかり易く説明している良書です。

第四期教育振興基本計画閣議決定を受けて、これからの教育界の中心の1つとなる課題を理解するためにも、教育に携わる学生は、必読することをお薦めします。



いつもの言葉を哲学する

DATA 著者：古田徹也
出版社：朝日新聞出版 発行年月：2021年12月

教育学部 児童教育学科
准教授

中村 誠

学習指導要領の国語科の目標には「国語を尊重して」という文言があります。「国語（言葉）を尊重する」とは具体的にどういう態度を指すのでしょうか。「言葉の教育を問直す」という本の中で、その共著者である荻谷 夏子氏は次のように述べています。

「(前略) 違和感があつたら見逃さず、自分を覗きこむようにして探り、選びとり、滑らかさを望むよりは、引っかかりや摩擦をバネにして、自分の体重を乗せるように、誠実に丁寧に使っていく。」

本書は、日常的な様々な言葉や言葉遣いを取り上げ、言葉を尊重し丁寧に扱うことについて考えさせてくれます。



なまえのないねこ

DATA 作：竹下文子 絵：町田尚子
出版社：小峰書店 発行年月：2019年4月

教育学部 教職支援センター
教授

池上 朗

町の猫にはみんな「名前」があるのに、自分には「名前」がないと気が付いた主人公の猫。

ある日、お寺の猫に「自分で好きな名前をつければいじゃない」と言われ、名前を探す旅に出かけます。名前がなかなか見付からず、疲れ切った猫。その心の中まで、雨音が響き渡ってきます。

そんな時、「ねえ。おなか すいているの？」と優しい声が…。そして、ネコは「自分が本当に欲しかったもの」を見付けるというお話。

大人も子供もなんだか心があたたかくなる絵本です。



中井久夫コレクション 「思春期を考える」 ことについて

DATA 著者：中井久夫
出版社：筑摩書房 発行年月：2011年9月

教育学部 教職支援センター
教授

升川 清 則

精神科医である中井久夫氏の「ちくま学芸文庫の中井久夫コレクション」全5巻の最終巻である。1979年に書かれた「ある教育の帰結」では、筆者は「勉強が、発達期の子どもにとって、全く満足のためでなく、安全保障感確保のためになっていることである。」と指摘している。今日の教育現場において、子どもが学びの中で満足を得ることができているか大いに考えさせられる。さらに、思春期のみならず、いろいろな状況や症状に対する筆者の考え方は、我われの生き方に拠り所を与えてくれる。何度も読み返して今の自分を見つめる機会を与えてくれる一冊である。



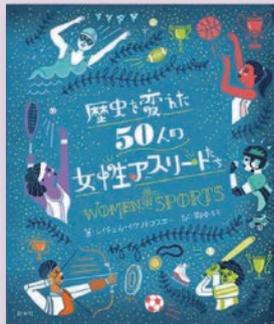
自分では気づかない、ココロの盲点

DATA 著者：池谷裕二
出版社：講談社 発行年月：2016年1月

看護学部 看護学科
准教授

山下 哲 平

あるモジャモジャ頭の青年は言いました。「真実は人の数だけあるんですよ、でも事実の一つです。」と。この真実が「認知バイアス」によって歪められると、人間社会において様々な問題が生じます。本書では、「認知バイアス」の225項目のうち、80項目を取り上げ、それぞれのケースについてわかりやすく科学的に解説しています。自身の思考のクセを認知し、自分にも他者へも理解のある人になりましょう。(自戒を込めて)



歴史を変えた50人の女性アスリートたち

DATA 著者：レイチェル・イブノフスキー (訳) 野中モモ
出版社：創元社 発行年月：2019年4月

教育学部 保健教育学科
講師

大谷 麻 子

歴史を変えてきた女性アスリート50人を取り上げて、その驚くべき成績やバイタリティあふれる人生を素敵なイラストとともに紹介しています。

取り上げられている50人の中で、印象に残っているアスリートはウィルマ・ルドルフというアメリカの陸上競技選手です。ウィルマは幼少期に小児麻痺を患っていたため、歩行が困難でしたが、その後回復し、世界記録を更新するスプリンターとなりました。彼女の勇気と信念は、多くの人々に感銘を与えたことが紹介されています。

このように不可能だと言われてきたことを、鍛えぬいた身体と不屈の精神で堂々と証明したアスリートたちの姿は、自分の限界をこえたいと願うすべての人を励ましてくれます。「わたしにはできる」という強い信念と、それを肯定し励ます周囲のサポート、力があることを証明したいという思い、経済的、社会的な格差への言及もされています。

是非読んでみてください。



覚悟の磨き方 超訳 吉田松陰

DATA 著者：池田貴将
出版社：サンクチュアリ出版 発行年月：2013年6月

看護部 看護学科
助手

林 田 正 子

「不安と生きるか。理想に死ぬか。」

外国の文明を知りたい一心で、黒船に乗り込もうとして捕まってしまったような人だけ、高杉晋作や伊藤博文などを育てた、すごい人なんです。

時代を超えても、熱く胸に響く言葉にふれてみませんか？

自信をつけたいとき、勇気が欲しいときにぜひ！！



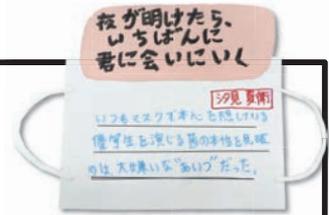
夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く



著者：汐見夏衛
出版社：スターツ出版
発行年月：2020年5月

社会福祉学部 社会福祉学科 4年
石原克馬

高校生の茜は、家でも学校でもいつも優等生で誰からも信頼されている。しかし、隣の席の青磁には「嫌いだ」と言われてしまう。茜は自分の気持ちをはっきりいう青磁の事が苦手だった。しかし、茜を救ってくれたのは、そんな彼だった。実は茜が優等生を演じているのには理由があった。そして青磁もまたある秘密を抱えていて・・・次第に距離を縮めていくうちに、初めて誰にも言えなかった思いがあふれ出す。青磁に対する茜の心情が徐々に変化する姿が丁寧に描かれていたり、自分に素直に生きることの大切さを改めて感じられる作品なのでぜひ、一度読んでみてください。



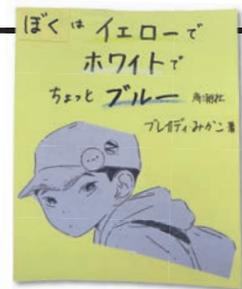
ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー The Real British Secondary School Days



著者：プレイディみかこ
出版社：新潮社
発行年月：2019年6月

社会福祉学部 社会福祉学科 2年
澤西亮佑

私の紹介する本は「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」です。優等生のぼくと母ちゃんは、ともに考え、ともに悩み、毎日を乗り越えていく。美少年なのにレイシストのダニエルや怖い兄貴がいるけど心優しいティム。ただでさえ、思春期なのに「ワケあり」だらけの中学校では家庭環境とか、性別の違いとか、ときには両親の肌の色をきっかけに毎日が事件の連発。今の時代だからこそ考えさせられる本です。



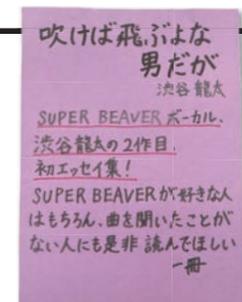
吹けば飛ぶよな男だが



著者：渋谷龍太
出版社：KADOKAWA
発行年月：2023年3月

看護学部 看護学科 2年
前田唯花

この本を選んだ理由は、先日参加した音楽フェスにSUPER BEAVERが出演していて、曲、パフォーマンスに感動したからです。ボーカルの渋谷龍太が、日常で感じている些細な疑問や喜びなど、気持ちが細かく描写されているエッセイです。個人的に好きな話としては「プライスレスで、フィニッシュです」「私があなたを『あなた』と呼ぶ」です。細かく描写できるのは普段から自分の考えを大切に、相手の考えを理解しようとし、周りをよく観察しているからだと思いました。SUPER BEAVERを知らない人にも是非読んでほしいです。



わたしのおとうと、へん・・・かなあ



著者：マリ=エレーヌ・ドルバル 作
おかだよしえ 訳
出版社：評論社
発行年月：2002年 10月

教育学部 児童教育学科 4年
沖田 尚子

障がい児の弟を持つさぎのリリは、いつまでも赤ちゃんのような弟ドードのことを気にかける。みんなはドードをからかうし、きょうだい達は関わろうとしない。両親はずっと甘やかす。リリはドードを「普通の子ども」のようにしたいと奮闘するが…。

フランスの「幼年期と染色体異常を考える21世紀の会」提唱により作られた本作。障害について考える、絵本から児童書への橋渡しになるような一冊です。相手のありのままを受け入れ、愛することの素晴らしさを伝えています。



ヤングケアラー 介護する子どもたち



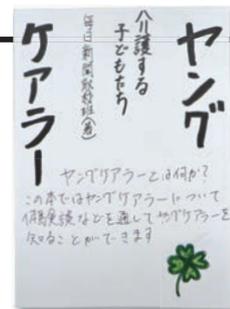
著者：毎日新聞取材班
出版社：毎日新聞社
発行年月：2021年 11月

教育学部 児童教育学科 2年
滝山 大空

この本はもともと毎日新聞に掲載された「ヤングケアラー幼き介護」をもとに書き下ろした本です。

ヤングケアラーという言葉がなかなか世の中に認知されず、「親孝行な子」「仲の良い家族」などと思われ、支援すべき対象とされない現状があります。当事者たちの体験談からヤングケアラーの深刻さを伝えてくれます。

親族の介護をすることで、学業が疎かになってしまう子どもがいるということを知る機会になるので、教員を目指す方などにぜひ読んで欲しい一冊です。



また、同じ夢を見ていた



著者：住野よる
出版社：双葉社
発行年月：2016年 4月

教育学部 保健教育学科 4年
児島 美彩

「人生とは○○のようなもの」というのが口癖の小学4年生の小柳奈ノ花。国語の授業で課されたテーマ「幸せとは何か」について考える物語です。

その過程で、いろいろな事情を抱えた友だちに出会います。奈ノ花が色々な人達に出会いながら成長していく姿に心揺さぶられる作品です。

簡単な言葉や内容が多く、普段読書をしない方も読みやすいと思います。しかし、伏線や印象に残る言葉も沢山散りばめられているので、読み応えは抜群です。素敵な言葉と出会い、幸せとは何か考えたいような小説なので、是非読んでみてください！



お知らせ

古本掘り出し市

毎年実施している古本掘り出し市（協力：赤穂高校図書部、赤穂警察署、赤穂市民病院）。

昨年は収益金47,737円を全国学校図書館協議会「大規模災害により被災した学校図書館への支援※1」へ、図書資料一部を「ホンデリング〜本でひろがる支援の輪〜※2」へ寄付しました。

今年も10月1日から8日まで開催します。

※1「学校図書館への支援」

公益社団法人全国学校図書館協議会が行っている事業

※2「ホンデリング〜本でひろがる支援の輪〜」

認定特定非営利活動法人全国被害者支援ネットワークが行っている、不要になった本を犯罪被害にあった方々への支援活動に活用する取り組み



昨年の様子

私たちは、国連の示す持続可能な開発目標（SDGs※）に対し、下記の課題解決を目指し活動しています。

ゴール4：質の高い教育をみんなに

2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

ゴール12：つくる責任 つかう責任

2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。

ゴール17：パートナーシップで目標を達成しよう

さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

※ SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは、2030年までに達成すべき国際社会共通の目標です。



図書館データ

- 蔵書数 79,343冊（うち外国書10,046冊）
- 年間受入図書 633冊
- 年間受入雑誌数 199種（うち外国誌58種）
- 年間受入新聞種数 16種（うち外国紙1種）
- 視聴覚資料 3,484点
- 年間館外個人貸出 5,152点（うち学生貸出冊数4,380冊）
- 年間入館者数 35,042人
- 契約オンラインデータベース 8種
- 開館時間 授業日・平日 9：00-21：00
土曜日 9：00-17：30
(2024年3月31日現在)

図書館ガイダンス

図書館ガイダンスは「1・2年次生編」、「3・4年次生編」など個別の申し込みを随時受け付けています。受講を希望される方は図書館カウンターへお越しください。

MyCARIN

皆さん、MyCARINはご利用いただいていますか？

MyCARINを利用すると

- 1 誰かが借りている本に予約ができます。
- 2 新着資料通知をPCメールで受け取れます。（分野等指定可）
- 3 貸出履歴の照会ができます。
- 4 現在借りている本の確認ができます。
- 5 利用可能なすべてのデータベースへのリンクが貼られているのでアクセスが容易にできます。

など、便利な機能満載！

MyCARINの利用にはIDとパスワードの発行が必要です。「利用したい」という方は、カウンターでIDとパスワードを発行してもらい、さらに図書館を便利に利用しましょう。

託送制度をご利用ください

2019年7月1日より、図書館相互利用推進事業の一環として、本学図書館も赤穂市立図書館、上郡町立図書館、備前市立図書館で貸し出された本の返却を受け付けています。

図書等は、返却期限内に、借りた図書館の利用者カードを持参して窓口（返却ポストは利用できません）へ返却してください。

学外者利用者の皆さんへ

本学では、教育・研究のために収集した図書館資料を多くの方々に利用していただけるよう、卒業生および一般の方にも閲覧・複写・貸出サービスを行っています。来館される前に必ず開館時間、臨時休館・開館日をご確認ください。

●利用できる方

【卒業生】本学を卒業した方

【一 般】18歳以上で本学の図書館資料を使って、研究、調査などをされる方。

●利用手続きに必要な物

【卒業生】現住所を確認できる身分証明書（運転免許証・パスポート等）

※「図書館利用者カード」を紛失している場合は「卒業証明書」（手数料400円）及び「図書館利用者カード再交付願」（手数料1,000円）の提出により再交付いたします。

【一 般】印鑑・生年月日および現住所が確認できるもの（運転免許証・パスポート等）

●利用できるサービス

【卒業生】閲覧、複写、貸出（冊数：4冊以内、期間：2週間以内）
ラウンジの利用（事前に校友会事務局に申込をしてください）

【一 般】閲覧、複写、貸出（冊数：3冊以内、期間：2週間以内）

編集後記

年々暑さが増す夏です。そして、バリ五輪。熱すぎる..定期試験が終わり長期休暇に入ると、館内も落ち着きを取り戻します。学習以外の本も手にとってみてください。今号も先生の著書をはじめたくさんの方の推し本を紹介しています。POPの創作も楽しいですよ◎ (O)

図書館では季節やテーマに合わせた展示を工夫し、みなさんに新たな発見や学びの機会を提供できたらと努めております。ぜひ、図書館での充実した時間をお楽しみください。(M)

みなさんは図書館をどのように利用されていますか？

朝一番にいつものお気に入りの場所です勉強する人、課題のレポートをパソコンスペースで作成する人、授業の合間に話題の小説を借りに来る人、毎日様々な目的で来館されます。

今しかない大学時代に、新しい出会いを求めてお越しください。(F)